

らい 来ぶらり

図書館へ気軽にぶらりと来館していただきたいという思いで命名しました。

図書館を英語で「Library(ライブラリー)」といいます。

No. 124 1月号

2016年1月1日 発行
たつの市立図書館

龍野図書館 TEL(0791)62-0469

新宮図書館 TEL(0791)75-3332

揖保川図書館 TEL(0791)72-7666

御津図書館 TEL(079)322-1007

<http://www.city.tatsuno.lg.jp/library/index.html>



携帯専用サイトへは、
左のQRコードから
(<https://www.lib015.nexs-service.jp/tatsuno-city/mobile/index.do>)

読書と私 No.115

『枕草子』との出遭い

揖保川町 佐々木 恵雄



『杉本苑子の枕草子』
わたしの古典9 集英社

春はあけぼの。…夏は夜。月のころ…秋は夕暮。…冬はつとめて。
雪の降りたるは言ふべきにもあらず。霜などのいと白く、またさらでもいと寒きに、火などいそぎおこして、…
(「枕草子 能因本・第一段」)

冬は早朝がよい。雪の朝のときめきは言うまでもないけれども、霜が真っ白に地上をおおう有様も捨てがたい。それでなくてさえ寒いのに、…(『杉本苑子の枕草子』より)

この第一段は、高校時代には苦心して暗誦した文章です。今朗読すると、若々しく、生き生きとした世界を拓いてくれることばが、次々と続いていると思います。

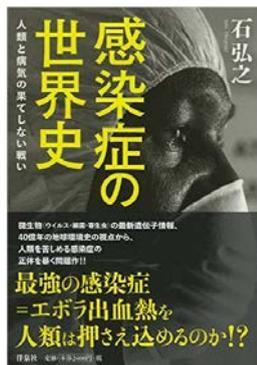
私と「枕草子」との出遭いは、学生時代の読書会でした。古典に興味を持つ数名の仲間と楠道隆教授を囲む隔月の読書会があり、そこで古典や現代文学の理解の近道は、まず本文を朗読することが大切である事を学びました。その古典が、数百年の時間を超えて、私の心に生き生きと日本語の美しさを伝えてくれることを知りました。

私の学生時代(昭和30年代)の図書館は、図書カードで検索して本を借り出しました。今は開架式の閲覧で、図書選択が思う存分にできて有難いことです。先日、話題書のコーナーで、鶴見俊輔氏の一文に出会いました。「人間はいつ自分になるのか。社会の中の一人として自分をとらえるのは何時だったか。(『ひとが生まれる 五人の日本人の肖像』鶴見俊輔著)」の言葉に感動して、私自身が、自分の一生の職業を決めたのは何時だったかと何十年もの過去を振り返りました。

私の教職への方向を決めたのは、学生時代、恩師の「枕草子」の朗読を感激しつつ聞いた読書会が、出発点だったと気付きました。その出遭いの時、言葉と言葉の作り出すリズムが、私の心をわくわくさせたのを今も思い出します。これからも、古典や新刊書の作者との出会いを楽しみに、図書館通いを続けたいと思います。

※『読書と私』は図書館の利用者に執筆していただいています。

『感染症の世界史』 石 弘之 著 洋泉社



2014年に致死率90%ともいわれるエボラ出血熱が大流行し、東京でデング熱が発生したことは記憶に新しい。

人類が狩猟採集民であった時にも様々な感染症はあったが、農業の開始

による定住で人同士、人と家畜が密に接触したことで感染症は増えたという。

また、人の移動や戦争が感染を拡散、蔓延させた。シルクロードの西から東には天然痘やはしかが、東から西にはペストが運ばれ、免疫がなかったため大流行を招き、東西の大帝国、漢と古代ローマの人口を激減させた。もともとインドの風土病だったコレラは英国軍の侵略から広がり、産業革命により都市化したロンドンで、下水が垂れ流されたまま飲料水となっていたため流行が繰り返された。

しかし、人類は数百兆をこえる常在菌と共存

し、大腸菌や乳酸菌などは消化や免疫を助け有益に働く。また、生物は感染したウイルスの遺伝子を自らの遺伝子に取り込み突然変異を起こし、遺伝情報を多様にして進化を促進するという。最近の研究ではウイルスに哺乳動物の胎盤を守る働きがあることもわかってきた。

2002年のSARSが瞬く間に世界規模で広がったように、現代では航空機で病原体も遠距離をより早く運ばれるようになった。森林破壊でオオコウモリを人里に引っ張り出したことがエボラ出血熱の流行につながり、ダム貯水で蚊による住血吸虫症が増えるなど開発が感染症を誘発し、抗生物質の乱用で耐性菌が急増する新たな問題も出てきたという。

病気の環境史という視点から、今後中国・アフリカへの注視の必要性は示唆に富み、私たちがかくも複雑な世界に生きていることに思いを致さざるをえない。(揖保川図書館 大西)

トピックス

初春のイベント

※申込、問い合わせは各図書館まで



御津図書館市民ギャラリー 「みつ木彫りの会」 作品展

市内で活動されている「みつ木彫りの会」の木彫りのレリーフや置物などの作品を、カウンター前に展示します。玄人顔負けの作品をお楽しみに！

【日時】1月19日(火)～24日(日) ※最終日は午後5時まで 【場所】御津図書館

野鳥教室

野鳥についての説明を聞き、渡り鳥や野鳥を観察します。

- 【講師】 圓尾 哲也 氏 (西播愛鳥会会長)
- 【日時】 1月23日(土) 午前10時～12時
- 【場所】 アクアホール3階研修室 (せせらぎ公園)
- 【対象】 小・中学生、高校生、一般 ※小学3年生以下は保護者同伴
- 【定員】 20名 (要申込・先着順)
- 【持ち物】 筆記用具・防寒具 (あれば双眼鏡・鳥類図鑑)
- 【申込】 揖保川図書館 (電話可)

読書講演会

元龍野図書館のおっちゃん(司書)による読み聞かせ講演会を開催します

- 【講師】 小寺 啓章氏 (ノートルダム清心女子大学非常勤講師、元太子町立図書館長)
- 【日時】 1月29日(金) 午後3時30分～5時
- 【場所】 たつの市役所 分庁舎 ホール
- 【申込】 龍野図書館 (電話可)

茶道～抹茶ってどんな味？

茶道の歴史や抹茶の点て方、飲み方の作法を知り、自分でお茶を点ててみよう！

- 【日時】 1月31日(日) 午後2時～3時30分
- 【場所】 新宮図書館 研修室
- 【対象】 5歳以上のお子さんと保護者
- 【定員】 16組 (要申込・先着順)
- 【参加費】 ひとり250円 (お茶・お菓子代)
- 【申込】 新宮図書館 (電話可)

『ひとまねこざる』

H. A. レイ 作 光吉 夏弥 訳 岩波書店

じょーじは、かわいいこざるでしたが、とても知りたがりでした。動物園の外がどんな様子か、知りたくてたまらなくなり、おりを抜け出し、バスの屋根に飛び乗って町まで来ました。お腹がすいてきたじょーじは、レストランの台所にあったスパゲッティーを食べてしまいます。かわりに皿洗いを言いつけられますが、4本の手足を器用に使えることから、窓のガラスふきの仕事をするようになりました。言われた通り、部屋の中を気にしないように仕事に励んでいましたが、ある部屋で、おじさんたちがペンキぬりをしているのを見てしまい

ます。おもしろそうな様子に、じょーじは我慢できなくなって部屋に入り込むと、きりんやひょう、しまうまなどを描いて、部屋中をジャングルにしてしまいました。見つかって逃げる途中、非常階段から飛び降りたじょーじは足を折り、病院に運ばれます。そして、ギプスをはめられ、ベッドに寝ていなければなりません。じょーじは、病院でもエーテルの入った大きな青いびんに興味を持ち、匂いをかいでいるうちに頭がふらふらして気を失ってしまいます。

好奇心いっぱいのじょーじが、次々と巻き起こす騒動は楽しく、読み手の心を引きつけます。明るい色調で描かれた絵は、じょーじの動きや表情をいきいきと伝えます。読んであげるなら4歳くらいから。

(新宮図書館 藤川)

『愛の一家 あるドイツの冬物語』

アグネス・ザッパ 作 遠山 朋子 訳 福音館書店

大きな町のはずれ、小春通りを歩いた先にある家の二階を借りて、ペフリング一家は住んでいます。高校生からまだ学校に通っていない末の子まで、男の子4人と女の子3人の兄弟と両親の9人家族です。子どもたちが階段の真ん中を飛ぶように通るので、すり減ってしまうと大家さんに注意されました。そこで皆で相談して、女の子と男の子で両端に別れて通ることに決めます。

ある日のこと、新しくできる音楽学校の校長先生にお父さんを推薦したいという手紙が届き、家族は皆すっかりその気になります。立地条件のいい場所を探すため、その話は延期になってしまいます。落ち込むお父さんを三姉妹はいつもなら贅沢品の

コーヒーをいれて元気づけます。クリスマスの市で、四男のフリーダーがツリーにみとれていると、こづかい稼ぎだと思われて運ぶのを任され、届け先が分からなくなってしまったり、バイオリンコンサートを行う天才少年を元気にするように頼まれて、ほがらかな次男ヴィルヘルムと心優しい末っ子エルゼが遊びに行くことにします。個性豊かな兄弟たちにはさまざまな出来事が起こりますが、最後にはお父さんが校長先生になることが決まり、皆の顔には喜びが輝きます。

音楽の響くにぎやかなペフリング一家はそれぞれに家族を思いやり、支え合います。裕福とはいえないけれど一家の冬の生活の中には愛情が溢れ、温かみを感じます。小学6年生くらいから。

(揖保川図書館 菅尾)



各館の行事予定

※詳細は各館へお問い合わせください。

館名	行事	対象(上段) ・ 時間(下段)	1月の予定
龍野図書館 TEL(0791) 62-0469	●えほんのじかん	1～3歳児、保護者 第2・第3土曜日(11時～11時20分)	9日・16日 『どうぶつのおかあさん』他
	子どもの本を読む会	一般 第2木曜日(10時～11時30分)	14日 『星のひとみ』 サカリアス トペリウス 著
	読書会	一般 第2金曜日(10時～11時30分)	8日 総会
新宮図書館 TEL(0791) 75-3332	●えほんのじかん	2～4歳児、保護者 第3・4月曜日 (11時～11時20分)	18日・25日 『おしょうがつさん』他
	■おはなしのじかん	5歳児～ 2日を除く毎週土曜日 (10時15分～10時45分)	9日・16日・23日・30日 「はらぺこピエトリン」他
揖保川図書館 TEL(0791) 72-7666	●えほんのじかん	3～5歳児、保護者 第2・第3土曜日(10時30分～10時50分)	9日・16日 『とらたとおおゆき』他
	■おはなしのじかん	小学生以上 第2・第3土曜日(11時～11時30分)	9日・16日 『はたらきもののじゅせつしゃけいていー』他
	読書会	一般 第3金曜日(10時～12時)	15日 「祝婚歌」(詩) 吉野 弘 著
御津図書館 TEL(079) 322-1007	●えほんのじかん	1歳～4歳児、保護者 第2・第3日曜日(11時～11時20分)	10日・17日 『とらたとおおゆき』他
		5歳児～ 第2・第3日曜日(11時30分～11時50分)	10日・17日 『うまかたやまんば』他
	読書会	一般 第3水曜日(13時30分～15時30分)	20日 『人間の分際』 曾野 綾子 著
	古文書を読む会	一般 第2土曜日(13時30分～15時30分)	9日 古文書の解説